語りのおもてなし

取組に至る背景・事業の目的

○　昔ばなしは、口伝えの文学であるため、本来一定の法則を持ち、子どもが耳で聴いて場面を思い浮かべるための様式が整っている。ところが現在、見た目の新奇性を際立たせるなど、昔ばなしが本来持っていた価値が歪められている事例がみられる。
○　佐久を中心に地域で語られてきた昔ばなしを、基礎理論に則り耳で聴いてわかる文に整える「再話」と子ども達への読み聞かせ等の活動により良質な文化の体験を広げていく。

【藤井いづみ氏『語りのおもてなし』】

事　業　内　容

○　研究会でこれまで再話してきた語り口調の昔ばなしを冊子「むかしあったとさ」にまとめ、3,000 冊を保育・教育関係施設に配布
○　筑波大学名誉教授小澤俊夫氏による研究者の立場からの講演会の開催
○　地域の保育園、幼稚園、学校での語りの会に加え、専門家による語りの会、岩村田商店街での語りの会等の実施

【再話集】

事　業　効　果

○　語り口調の昔ばなし集を出版配布したことで、保育の場など幼児を対象にした読み聞かせでも再話集が活用されている。研究会会員による語りの会でも活用され、対象の幼児・児童生徒が地域の昔ばなしにふれるきっかけとなっている。また販売用本(事業外自費製作分)が２ヶ月で 150 冊購入されており、地域での関心や活用が伺われる。
○　講演会の開催により、一般の他、お話し会の活動をする方々にお話(本)を選ぶ視点も提案することができた。
○　専門家の語りの会や地域での定例の語りの会により、これまでの対象に加え、大人を含む延べ 200 人が語りにふれ、昔ばなしにひたる体験をした。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

子ども達の“お話の体験”を広げていくために、出版した再話集を活用するほか、語りの研究会の協力を得たりしながら、語りの会の拡充を図る。
・保育、教育関係施設での語りの会を充実させ拡大していく。
・地域での語りの会を定例で安定した開催とし、地域のお話しの担い手と連携していく。

【選定のポイント】
これまで 15 年間にわたり研究してきた再話の理論に基づき、佐久地方に伝わる物語 32 編を、「むかしあったとさ」という冊子にまとめた。また、昔ばなしの伝承の重要さを伝える講演会（参加 117 人）や語りの会（通常月平均参加者 700 名＋26 年度新規開催分延べ 201 人）の活動も活発に行われている。

団体名	佐久昔ばなし大学再話研究会（佐久市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0267-68-5688(Tel&Fax)	事 業 費	２，７１４，４３０円
メールアドレス	sakusaiwa@gmail.com	支援金額	２，０３５，０００円